

ドイツ諸ラント史辞典

—中世から現在までのドイツ領邦と帝国直属家門— ①

翻訳：鎌 野 多美子*

Historisches Lexikon der deutschen Länder

—Die deutschen Territorien vom Mittelalter bis zur Gegenwart—

Tamiko Kamano *

歴史的なラントの辞典

A

Aach アーハ ^{ヘルシャフト}(領地)

ラードルフツェルのアーハ川の源泉の傍に位置するアーハは、6世紀に生まれたと思われるが、1158年に初めて言及されている。それは、アーハの君主たちの一領地の中心となったが、かれらから、1200年頃にコンスタンツ高司教区本部にわたり、その高司教区本部のハーブスブルク家出自の司教が、それを、1273年直後にハーブスブルクの諸伯に与えた。オーストリアの^{フキアランデ}前面地の部分（フォルダーエスターライヒ）として、それはしばしば担保として与えられた。1543年にはそれはオーストリアの方伯領ネレンブルクに分配された。1805年12月26日もしくは1806年にそれはヴェルテンベルク、1810年にはバーデン、そしてその結果、1951年ないし1952年にバーデン・ヴェルテンベルク州にいきついた。

Aachen アーヘン (帝国都市)

アーヘンの温泉は、すでにローマ時代より以前に利用されていた。ローマ人のもので、そこは1世紀末頃から軍隊の温泉地に、その後文民の入植によって軍事上の拠点に発展した。その古代の名称は、アクアエ・グラニと綴ったと思われ、ケルト語の、病気を治す神グラヌスに由来すると推測される。入植の連続性を証明できるものはないが、メロヴィング朝時代に、王宮（765年にプファルツ、766年にヴィラ・レギアと表記されている）が見つかり、それをカール大帝が789年までに改装し、多くの王領をそれに与えた。936年以降、アーヘン（972年にアキスグラニ・ヴルガリ・ヴォカプロ・アーハ）は、ドイツ国王の戴冠式を行う場所（1531年まで）であった。むろんアーヘン周辺に放置されていた王領は、数多くの贈与により、北東に延びる一地域にまで減少した。フリードリヒ1世バルバロッサの治下、アーヘンは、1166年に特別な諸権利（カールの特許状とバルバロッサの特許状）を獲得した。1171年から1175年までにそれは外壁で囲まれ、その環状市壁は13世紀中頃から

*かまの たみこ：大阪国際大学現代社会学部教授〈2008.12.11受理〉

1330年頃まで拡張された。とくにアーヘンの織物製造業と真鍮製造業は高い評価を得ていた。1192年に市民の大学と並行して証明されているその審判人合議体は、重要な上級裁判所の出発点となった。1250年には市参事会と市長が出現した。シュタウフェン朝時代末までにアーヘンは帝国自由都市となった。1336年に皇帝ルードヴィヒ4世（バイエルン公）はアーヘン帝国自由都市に所属する領域（アーヘン帝国）を認め、1356年金印勅書に、アーヘンを、戴冠式を行う地として法的に明言した。1530年以降アーヘンは徐々にプロテスタント化（アーヘン抗争）したが、1614年にケルン諸大司教によって再びカトリック化した。1656年にアーヘン市は火災で約90パーセントが消失した。アーヘンは1794年にフランスに占領され、1801年にはフランスに割譲された。また1798年から1814年までそれはルール県の行政の所在地となり、1802年から1814年ないし1815年まで司教の居所となった。なお、1800年頃には面積約1.5平方マイルで人口1万8000人の都市であった。1815年にはアーヘンはプロイセンのものとなった。1944年にそれはほとんど全滅し、1946年にはノルトライン・ヴェストファーレン州の一部となった。参照ニーダーライン・ヴェストファーレン帝国クライス。

Aagau アーガウ（Agaアーガ、アー川周辺のガウ、ヴェレ川の左岸の支流、ヴェストファーレン）

Aalen アーレン（帝国都市）

古代ローマのリーメス（長城）の南東4キロメートルに位置する古代ローマの城砦（カステル）と古代ローマ市民の入植地の東部に、昔からの街道の交差点に位置する村アーレン（既に1136年に登場する）に隣接して、都市アーレンは、1241年から1246年にシュタウフェン家によって計画的に建設された。1258年に、それはディリンゲンの諸伯を経由してオエッティンゲンの諸伯の手に渡った。1359年頃にそれはオエッティンゲンの諸伯によってヴェルテンベルクに担保として与えられたが、1360年にカール4世に征服され、担保から解かれ、帝国都市に昇格した。1374年にアーレンは自治、1401年に流血裁判権、1418年に帝国長官職を獲得した。特記すべき支配地域はもっていなかった（0.8平方マイル）。神聖ローマ帝国では、それはシュヴァーベン帝国クライスとシュヴァーベン都市座に所属していた。1575年に宗教改革が導入された。1802年ないし1803年に人口約4000人と、小集落および農場に限定された支配地域をもって、それは、ヴェルテンベルクのものになり、官庁所在地となった。ヴェルテンベルクを経て、1951年ないし1952年にバーデン・ヴェルテンベルク州にいきついた。

Aalst アールスト（伯領）、Alst アルスト

870年に初めて言及されている一城塞の名をとったアールストは、伯領フランドルを経由してブルグント帝国クライスに属していた。それはすでに1056年には帝国レーンとしてフランドル（帝国直轄フランドル）の諸伯の手にわたっていた。その諸伯は964年から知られており、1117年から1145年までコメスと呼ばれたアールストの諸伯の一族の遺産を、

1166年に相続した。1384年ないし1385年にフランドルはブルグントにいきつき、1477年にブルグントとともにハーブスブルクにいきついた。1794年にそれはフランス、1814年にオランダ、1830年にはベルギーのものになった。

Aarberg アールベルク (諸伯)

アールベルクの諸伯は、スイスのノイエンプルクの諸伯の一分家であった。この分家から、1215年頃に、アールベルク - アールベルクの諸伯とアールベルク - ヴァランギンの諸伯は分かれた。1358年に領地アールベルク - アールベルクは、ベルンに担保として与えられた。同じように債務超過に陥っていたアールベルク - ヴァランギン系は、1517年に男系の血統が絶えた。

Aargau アールガウ (地方、伯領、カントン)

すでに先史時代に入植され、その後ローマ人に支配され、5世紀以降アレマン人に征服され、6世紀にフランク帝国に編入されたアーレ川周辺のその地域は、763年に初めてアールガウと呼ばれている。861年頃にオーバーアールガウとウンターアールガウに分かれた。そのオーバーアールガウは15世紀初頭にベルンの支配下、ウンターアールガウは、ハーブスブルクの諸伯の支配下にあった。ハーブスブルクの諸伯はそれを1264年から1400年までレンツブルクの諸伯から、あるいはむしろ1173年ないし1174年にレンツブルクの諸伯の後継者になったキーブルクの諸伯から相続していた。1415年にスイス盟約団体はそのウンターアールガウを征服した。その後、レンツブルク、ツォーフインゲン、アーラウ、アールブルク、を含む西の部分は、ベルンに、小さな部分はルツェルンとチューリヒに、伯領バーデンと都市メリンゲンと都市ブレムガルテン、また東にあったフライアムトは、1443年以降、共有の領地として、スイス盟約団体の8つのオルトに従属していた。1528年にベルンの地域では宗教改革が導入された。1798年に2つのカントン、つまりヘルヴェチア共和国のアールガウとバーデンが生まれたが、1803年にオーストリアのフリックタールを含めて併合された。しかし、1805年にアールガウはスイスの独立したカントンとなった。1831年にはそれは自由主義的な憲法を得た。1841年にアールガウの修道院紛争で諸修道院は廃止された。

Abenberg アーベンベルク (諸伯)

1040年頃に初めて言及されている (アービンベルヒ) アーベンベルクの諸伯は、11世紀と12世紀にはラーデンツガウとランガウの諸伯——正確には1108年以降——、また高司教区本部バンベルクや様々な修道院 (バンツ修道院も含まれる) の代官であった。また司教や女子大修道院長たちを輩出した。かれらの所有地は、一部は1189年に高司教区本部バンベルクのものになり、アーベンベルクの家系が消滅したのち、1199年ないし1200年頃に婚姻によって、ツォレルン (ホーエンツォレルン) 家のニュルンベルクの城伯たちの手に渡った。かれらは1296年にその地域^{オルト}アーベンベルクを高司教区本部アイヒシュテットに売却した。

Abenberg アーベンベルク (帝国騎士)

アーベンベルク家は16世紀初頭にはフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンとシュタイガーヴァルト・カントンの属していた。

Abensberg アーベンスベルク (諸伯、帝国直轄領地)

ケールハイム近郊のアーベンスベルクは、1031年に初めて言及されている (アーベンスベルヒ)。12世紀以降にアーベンスベルクの諸伯はバーボン家から出現した。かれらはアルトマンシュタイン周辺のドナウ川とアーベンス川とのあいだ、アルトミュール下流河畔に土地を所有し、レーゲンスブルクの私有教会の代官として活躍していた。1274年にアーベンスベルクは、昔からの諸伯が死に絶えたあと、家系分離をし、領地アーベンスベルクと領地アルトマンシュタインになった。1485年ないし1486年に帝国直轄領アーベンスベルクはアーベンスベルクの最後の伯の死 (1485) とともに、帝国レーンとしてバイエルン公のミュンヘン系の血統 (バイエルン-ミュンヘン) にいきついた。1552年にアーベンスベルク裁判所とアルトマンシュタイン裁判所は、同君連合によって結びつき、その本拠地はアーベンスベルクに置かれた。

Abensberg und Traun アーベンスベルク・ウント・トラウン (諸伯、帝国騎士)、 Abensperg - Traun アーベンスベルク-トラウン

1752年にアーベンスベルク・ウント・トラウンの諸伯は、1764年に^{シュテイツト}司教区本部ケンプトンから購入した領地ジッゲンを所有していたので、シュヴァーベン騎士クライスのアルゴイ-ボーデンゼー・カントンの属していた。

Abersfeld アーバースフェルト (帝国騎士)

アーバースフェルト家は16世紀初頭にフランケン騎士クライスのレーン-ヴェラ・カントンの属していた。

Absberg アプスベルク (帝国騎士)

ゲンツェンハウゼン近郊のアプスベルクの自由貴族の君主たちの^{ロードウングスヘルシャフト}開拓領地は、早くから流血裁判権を獲得していた。皇帝カール4世 (1316-78) はかれらに^{ハウプトオルト}筆頭地として防衛権を、ブランデンブルクの辺境諸伯として1469年に帝国副侍従長職の世襲地位を与えた。15世紀から17世紀半ばまで、アプスベルク一門はフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンの属していた。1680年頃まで、かれらはオーデンヴァルト・カントンの登録簿にも記載されていた。1647年に、アプスベルクは長期にわたる係争の後、その相続人たちをうまく処理したドイツ騎士団にわたった。1796年にプロイセンのその騎士団の領地は皇帝直属の地位を剥奪され、1806年にバイエルンのものになった。

Abtsgmünd アプトスグムント (帝国騎士領)

ヴェルシュタインを含むアプトスグムントはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・

カントンに属し、そしてエルヴァンゲンにわたった。エルヴァンゲンを經由して1802年ないし1803年にヴェルテンベルク、1951年ないし1952年にバーデン - ヴェルテンベルク州にいきついた。

Achalm アヒャルム (伯領、^{ライヒスドル}帝国村落?)

ロイトリンゲンのアヒャルムは11世紀に初めて言及されている。アヒャルムの名称にちなんで自らをそう名乗った諸伯たちは、1098年に絶えた。かれらの城塞 (13世紀には帝国代官の居所) は、1330年に帝国担保としてヴェルテンベルクにいきついた。アヒャルムは帝国村落であった可能性が大である。

Achberg アッハベルク (領地、帝国騎士領地)

ヴァンゲンの南に位置する城塞アッハベルクと領地アッハベルクは、1194年に初めて言及されている。それらは14世紀にアッハベルクの君主たちからトルッフゼス・フォン・ヴァルトブルクの宮廷司厨長たちに、1335年にモルベルトスハウスの君主たちに (かれらはそれを1352年にハーブスブルクにレーンとして与える)、1412年にケーニヒスエックの君主たちに、1530年には相続によりズェルゲンシュタイン (ジルグ・フォン・ジルゲンシュタイン) の君主たちにわたった。1691年には、シュヴァーベン騎士クライスのヘーガウ・カントンにわたるよう操縦されながらの購入によって、ズェルゲンシュタイン (ジルグ・フォン・ジルゲンシュタイン) の君主たちから、ドイツ騎士団 (アルツスハウゼンのラント騎士修道会管区長) にわたった。1805年ないし1806年にバイエルン、その後1806年のライン同盟規約によってホーエンツォレルン-ジグマリンゲン、1850年にはホーエンツォレルン-ジグマリンゲンとともにプロイセンにわたった。1854年までアッハベルクは^{オーバーアムト}上級裁判所の所在地だった。1947年にそれはヴェルテンベルク-ホーエンツォレルン、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にいきついた。

Achilgouwe アヒルグーヴェ (パーグス・アクリンジス、パーグス・アクイリンジス、“アイヒェルガウ”、エルザス)

参照アイヒェルガウ。

Achstetten アッハシュテッテン (領地)

1194年に初めて記述されているビーベラッハ近郊のアッハシュテッテンに、14世紀中頃以降、フライベルクの君主たちの分家が住みついてた。1447年に、かれらは、その領地の3分の1を大修道院ゲーテンツェルに売却した。1639年に残り3分の2は、その系の滅亡時にオエッティンゲン・シュピールベルク・ツー・シュヴェンディーの諸伯に、1766年に交換によってヴェルデン - グロースラウプハイムの男爵たちに、1795年にヴァイルのロイトナー (ロイトナー・フォン・ヴァイル) 男爵 (1819年から諸伯) たちにわたった。参照バーデン - ヴェルテンベルク州。

Acqui アクイ (^{シュタットコムーネ}自治都市)

ローマのアクアエ・シュタティエラエに從属するボルミダ河畔のアクイ・テルメは、12世紀にはロンバルディアの諸都市の同盟（ロンバルディア都市同盟）に所属していた。1260年から1708年までアクイは断続的にモンフェラの辺境伯に從属した。その後、サヴォアのものとなった。

Adalhartesbara アダルハルテスバラ (ガウ)

Adalahkeuee アダラーコイウエ (イザール川とニーダーバイエルンの小さなヴィルス川とのあいだのガウ)

Adelmann von Adelmansfelden アーデルマン・フォン・アーデルマンズフェルデン (帝国騎士、帝国男爵、帝国諸伯)

エルヴァンゲンの西方に位置するアーデルマンズフェルデンは、1113年に初めて言及されている。12世紀の20年代以降、アーデルマンズフェルデンの君主たち（後に帝国ミニステリアーレン）の存在は実証されている。14世紀中頃に、かれらは自分たちの名前の元となった城塞を手放し、1385年から1407年までノイブロンに居を定めた。後に、かれらは、1530年に手に入れたホーエンシュタット、15世紀に獲得したシェヒンゲン、1657年にラング家に売却した土地つまりデヴァンゲン、ライヒェンバッハ、ファウルヘルンホーフ、ローダムスデルフレとともに、シュヴァーベン帝国騎士領のコヒャー・カントンの構成員となった。1680年にかれらは帝国男爵、1790年には帝国伯に上昇した。

Adelmansfelden アーデルマンズフェルデン (領地)

エルヴァンゲンの西方に位置するアーデルマンズフェルデンは1113年に初めて言及されている。アーデルマンズフェルデンという地名にちなんで、かれらは自らをアーデルマンズフェルデンのアーデルマンと名乗った。14世紀中頃、かれらはその地名の元となった城塞を手放した。アーデルマンズフェルデンは大空位時代以後オエッティンゲンの諸伯のものとなり、そこから売却により、1361年にエルヴァンゲン修道院、1380年にリンブルクの^{シエンゲン}家、1493年にはゲオルク・フォン・フォーエンシュタインのものになった。最終的に46の村を包括し、シュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していたその領地は、1806年にヴェルテンベルクにいきつき、その結果、アーデルマンズフェルデンは、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にいきついた。

Adelsheim アーデルスハイム (男爵、帝国騎士)

メルгентハイム西方に位置するブーヒェン近郊のアーデルスハイムは、すでにフランク王国時代に入植（799年に記載）されていた。その地の君主たちは、14世紀初頭以降アーデルスハイムの君主であった。ブーヒェン近郊のゼンフェルトもその半分はかれらに属していた。1347年にその^{オルト}地域は都市と呼ばれ、ヴェルツブルクのレーンとなった。諸々の

都市権が1347年にカール4世から付与された。1550年頃から1800年頃まで、元来帝国ミニステリアーレン身分であったアーデルスハイムの男爵たちは、(1439年に獲得した領地アーデルスハイム、エーデルフィンゲンの8分の1、ネッカー河畔のビナウ、ラウデンベルク、ゼンフェルト、フォルクスハウゼン、ヴァッハバッハの5分の3、ヴァイカースハイムのナッサウ、ハッハテルの3分の1とデルテルの3分の2とともに)フランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。16世紀後半にはかれらはレーン-ヴェラ・カントンにも登録されていた。1806年にアーデルスハイムはバーデンにいきついた。ハッハテルを含むヴァッハバッハと、デルテルは1808年にヴェルテンベルクに、ラウデンベルクとフォルクスハウゼンとゼンフェルトはバーデンにわたった。参照バーデン-ヴェルテンベルク州。

Adelshofen アーデルスホーフェン (帝国騎士)

16世紀および17世紀にアーデルスホーフェン家はフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。

Adelsreuth アーデルスロイツ (領地) **Adelsreute** アーデルスロイテ

領地アーデルスロイツは18世紀末にザーレム大修道院に所属していた。これはバーデン経由(1802年ないし1803年)で1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にいきついた。

Adelstetten アーデルシュテッテン (帝国騎士領)

アーデルシュテッテンはコヒャー・カントンに属していたが、帝国直属を剥奪された時、ヴェルテンベルクにわたった。参照バーデン-ヴェルテンベルク州。

Adendorf アーデンドルフ (帝国騎士領)

ボン南部に位置する、帝国領から生まれたと思われるアーデンドルフは、893年にはじめて、プリューム修道院の土地の一つとして言及されている。この修道院の権利を、後に、とくにホッホシュターデンの諸伯が手に入れた。12世紀にトリーアの司教座聖堂参事会はアーデンドルフにあるクンベ農場を所有した。レーン保持者は、最初はフォン・アーデンドルフ家、1215年にはフォン・トンブルク家だった。1246年にホッホシュターデンの最後の伯は、自らの諸権利を大司教区本部ケルンに委譲した。1336年にフォン・ビューヒェルホーフェン家は、そのクンベ農場をトリーアからレーンとして手に入れた。1413年にトリーアはそれをビューヒェルホーフェン家の継承者としてのヨハン・フォン・ケンペニヒ、1420年にビルゲル(ビュルゲル)家、1453年にシェーンエック家、その後、オルスベック家にレーンとして与えた。1453年後まもなくクンベ農場のレーン権は大修道院ジークブルクにわたった。16世紀にはフォン・デア・ライエン男爵たちがアーデンドルフに定住していた。伯領ノイエンアールがユーリヒへ相続された後、1546年に、アーデンドルフはユーリヒ内の裁判所となった。が、プファルツ選帝侯はユーリヒの公として、1659年に、その

アーデンドルフ裁判所をフォン・デア・ライエン家のラントスクローン（ラントスクローネ）への持ち分と交換した。皇帝レオポルド1世（1658-1705）は、ライン帝国騎士クライスのニーダーラインシュトローム・カントンに税を納めていたアーデンドルフを、帝国直轄領地に昇格させた。1815年にアーデンドルフはプロイセン、1946年にはノルトライン-ヴェストファーレン州にきた。

Adler アードラー（帝国騎士）

18世紀に、アードラー家はザクセンフルーアの一部とともにフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Admont アドモント（修道院）

859年に初めて言及されている、エンス溪谷のアドモントに、ザルツブルクの大神父とフリーザハの伯女は、1074年にシュタイアーマルク最古のその男子修道院を創設した。

Aerschot アエルショト（公領）、Aarschot アールショト

1612年にクロイの諸公の世襲地から、アレンベルクにわたったブラバントのアエルショト公領は、ブルグント帝国クライスに属していた。

Aestbrucksterland アエストブルックスターラント（フリースラントの地域）

Aestersemeraland アエスターゼメララント（フリースラントの地域）

Affa アッフア（ボーデン湖の北部に位置するガウ）

Afra アフラ

参照アウクスブルク、ザンクト・ウルリヒ・ウント・アフラ。

Aga アガ

参照アーガウ。

Agartinga アーガルティンガ（パーダーボルンの南西に位置するガウ）

Agratingun アグラティンゲン（エムス川の中流域に位置する地域）

Ahaus アーハウス（領地）

アーハウス（1020年アーフーズン）は1139年（アーハウスの君主たち）初めて古文書中に記述されており、14世紀に都市に発展した（都市法1391年）。領地アーハウスは、12世紀にディーペンハイム（1134年にディーペンハイムの君主たち）（オーバーアイセル）と

結びついていた、が、その一門が絶えた後、婚姻によって1241年にホルストマールの君主の一家系にわたった。そして1406年、オッテンシュタインとゴーゲリヒト・ツム・シュタインネン・クロイツの分離後、売却によって、アーハウスに役所（アムト）を設置した高司教座本部ミュンスターにわたった。1803年から、そこにはザルム-キープルクの王子たちが居住した。かれらは、アーハウスとボヒョルトの役所管轄区域の3分の1を、ライン左岸の（地を失った）損失補償として手に入れていた。1810年以降アーハウスはフランス王国に所属し、1815年にプロイセン、1946年にはノルトライン-ヴェストファーレン州にいきついた。

Ahausen アーハウゼン

参照ゾンマーハウゼン、ヴィンターハウゼン。

Ahrenfels アーレンフェルス（領地）

参照アーレンフェルス（Arenfels）。

Ahrensberg アーレンスベルク（地方）

1329年にアーレンスベルク地方はシュロス・シュトレリッツとともに、1304年にブランデンブルクからメクレンブルクにわたっていた地方、シュタルガルトに併合された。

Ahrensböck アーレンスベーク（修道院、^{アムト}役所管轄区域）

オイティン近郊に位置する1397年に建立された修道院アーレンスベークは、1542年に解体された。その修道院の諸所有地は、1565年に役所管轄区域に変えられた。その役所管轄区域は1623年から1761年まで公領シュレースヴィヒ-ホルシュタイン-ゾンダーブルク-プレーンの一部だった。1866年にオルデンブルクの大公は、自らの相続請求権としてホルシュタインの一部を要求し、その役所管轄区域アーレンスベークを手に入れた。

Ahrental アーレントル（帝国騎士領）、 **Ahrental** アーレントール

13世紀初頭にジンツイヒの君主たちは、帝国所有地に、ジンツイヒの南西に、その城塞アーレントルを建設し、その城塞の名称にちなんで自らをそう名乗った。16世紀に帝国の諸レーン権はなくなった。領地アーレントルは、相続により、ヘレン・ヴィルドベルク（ヴィルトベルク）家、エッフェルン家、メーアシャイト・ケーナント・ヒレスハイムの男爵たち、そして最終的にシュペー（シュペ）の諸伯にわたった。1702年にその領地は帝国騎士階級になった（ライン騎士クライスのニーダーラインシュトローム・カントン）。参照ラインラント-プファルツ州。

Ahrgau アールガウ（ガウ）（Arachgouue アーラッハゴウウエ 769年）

Ahrn アールン (帝国騎士) **Aren** アーレン、**Arnim**? アルニム、**Arnsberg**? アルンスベルク

16世紀にアールン家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンに属していた。

Aichfeld アイヒフェルト

Aichholzheim アイヒホルツハイム、**Aicholzheim** アイヒオルツハイム (帝国騎士)

1550年頃にアイヒホルツハイム家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントン属していた。

Aichinger アイヒンガー (帝国騎士)

18世紀後半に、アイヒンガー家はフランケン騎士クライスのゲビルク・カントンに属していた。参照アイヒンガー・フォン・アイヒシュタム。

Aichstetten アイヒシュテッテン (領地)

1491年にトルッフゼッセン・フォン・ヴァルトブルク家は、メミンゲンとロイトキルヒのあいだに位置するその領地アイヒシュテッテンを獲得した。それは後にヴァルトブルク-ツァイル-トラオホブルク系ないしヴァルトブルク-ツァイル-ツァイル系にわたった。

Aisch アイシュ (帝国騎士)

16世紀初頭にアイシュ家はフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに属していた。

Aislingen アイスリンゲン (領地)

ディリンゲンの南に位置するアイスリンゲンの周囲につくられたその領地は、1489年に高司教区本部アウクスブルクに取得された。参照バイエルン。

Alaholfsbaar アラーオルフスバール (ガウ)

Alb アルプ (地方名)

Alba アルバ^{シュタットシュタート} (都市国家)

ローマのアルバ・ポンペイアに続くタナロ河畔のアルバは、ロンバルディア都市同盟の一員であった。ミラノとモンフェラとの長い紛争後にアルバはモンフェラ、1631年にサヴォア、そしてその結果1861年にはイタリアにわたった。

Albani アルバニ (帝国侯)

1710年にアニバーレ・アルバニは帝国侯に上昇した。1715年にその一門の所有地ゾリア

ノは侯領になった。

Albanum アルバヌム (レーン)

アルバーナ湖畔の城カステル・ガンドルフォとともに、アルバヌムは、18世紀に、教皇領において、皇帝のレーンであった。

Albeck アルベック (領地)

ウルム北部に位置するアルプ周辺の「エック」にちなんで自らをそう名乗った上級貴族一門のアルベックは1107年以降証明しうる。アルベックは一領地の中心地となった。それは、1250年頃にアルベックの君主ないし諸伯の家系が絶えた時、女子相続人を經由してブルガウの辺境諸伯に、1293年に同じように女子相続人を經由してヴェルデンベルク (-ザールガンス) の諸伯にわたった。帝国都市ウルムは、1381年にヴェルデンベルク-アルベックの債務を抱えた諸伯から、その城塞とデア・ローネのこちら側 (ドイツ側) の領地、1385年には残り全部を手に入れた。その地域は、1802年から1810年までバイエルン、1810年にヴェルテンベルクに帰属し、その結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州に入った。

Albegouwe II アルベグヴェ2世 (ロートリンゲンのアルベガウ、ザールガウとザイルガウとカルメンツガウ[カウモントイス]とフォゲーゼンとの間)

Albersfeld アルバースフェルト (帝国騎士)

レーン-ヴェラ-カントン、フランケン騎士クライス。

Albertiner アルバルティナー

参照ザクセン、ヴェッティナー。

Albertini アルベルティニ (帝国騎士)

すでに1680年に定住し、複数の土地とともに騎士位に登録されていた、イヒトラッツハイムのアルベルティニ一族は、1773年には、ウンターエルザス騎士クライスに属していた。1802年に、イヒトラッツハイムの男爵でパンナーヘルであるフランツ・ラインハルト・ハニバル・アルベルティニは、シュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンの村落オルテナウに属していた。1808年にアルベルティニ・フォン・イヒトラッツハイム家の男系は絶えた。

Alberts アルベルトス (帝国侯)

1742年に、1729年以降グリムベルクヘン (グリムベルゲン) の侯だったバイエルン伯ロイス・ヨセフ・デア・アルベルトスは、帝国侯に上昇した。

Albigouwe アルビクゴウヴェ (カールスルーエ近郊のアルプガウ)

Albini アルビニ (帝国騎士)

18世紀末にアルビニ家は、1799年にグロシュラーク・フォン・ディーブルクが獲得したメッセルとともに、フランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。メッセルは1808年にヘッセン-ダルムシュタットのものになり、その結果、1945年にヘッセンにわたった。

Albrecht アルブレヒト (帝国騎士)

アルブレヒト家は、17世紀ないし18世紀にフランケン騎士クライスのシュタイガーヴァルト・カントンに属していたと思われる。

Albuinsbaar アルブインスバール (ガウ)

Aldenburg アルデンプルク (帝国諸伯)

アルデンプルクの帝国諸伯は、オルデンプルク伯アントン・ギュンテル (1667年没) の非嫡出子アントンの子孫である。家族世襲地として領地クニップハウゼンと領地ファーレルはかれらに属していた。これらは婚姻によって1761年にベンティンク諸伯のヴェストファーレン系にわたった。

Aldingen アルディングエン (帝国騎士領地)

アルディングエンはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。そしてヴェルテンベルクにわたった。参照バーデン-ヴェルテンベルク州。

Alemannia アレマニア (ラント名)

Alessandria アレスサンドリア (都市国家)

1168年に建設され、1168年に教皇アレクサンダー3世 (1159-81) にちなんで名づけられたタナロ河畔のアレスサンドリアは、ロンバルディア都市同盟の一員であった。1348年にそれはミラノ、1707年にサヴォア (1861年にイタリア) のものになった。

Aletzheim アレッツハイム (帝国騎士)

1550年頃にアレッツハイム家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Alfingen アルフィンゲン (領地)

アーレン近郊のアルフィンゲン (ヴァッサーアルフィンゲン) 周辺に形成されたその領地は、1553年に司教座聖堂首席司祭管区エルヴァンゲンによって獲得された。ヴェルテン

ベルクを經由（1802年ないし1803年）して、アルフィンゲンは、1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンベルク州に吸収された。参照ヴァッサールフィンゲン。

Alingavias アリンガヴィアス（ランジェ）

Allendorf アレンドルフ（共同相続人、レーン-ヴェラ・カントンの帝国騎士）

13世紀と14世紀にカツェネルンボーゲン諸伯に、また13世紀にマインツ大司教座本部に仕えていた貴族一門は、コンラート・フォン・アレンドルフでもって、1174年に登場した。かれらは1499年から1533年まで共同相続地モメンハイムに関与していたが、その後滅亡した。

Allerheiligen アラーハイリゲン（修道院）

1196年にウタ・フォン・シャウエンブルクは、プレモントレ修道参事会会員の住宅アラーハイリゲンをシュヴァルツヴァルト北部に創設した。それは13世紀にロルシュ修道院と合併し、1657年に大修道院に上昇した。それは1803年にバーデンにわたった。参照バーデン-ヴュルテンベルク州。

Allerheiligen アラーハイリゲン（帝国修道院）

参照シャッフハウゼン（帝国修道院）。

Allgäu アルゴイ（カントン、カントンの区域、アルプガウ ガウ）、アルゴイ-ボーデンゼー

アルゴイは、ヘーガウ・カントンの一部、つまり帝国騎士身分（ヴァンゲンに議席を有する）のシュヴァーベン騎士クライスのアルゴイとボーデンゼー（ヘーガウ-アルゴイ-ボーデンゼー）の一部である。

Allgäu-Bodensee アルゴイ-ボ^{クヴァルティアー}ーゼンゼー（市区）

参照ヘーガウ。

Alliata アリアータ（帝国侯）

1716年にギウゼッペ・アリアータは帝国侯に上昇した。

Allstedt アルシュテット^{フファルツ}（皇帝城）

ザンガーハウゼン近郊のアルシュテットに、オットー大帝時代およびザーリア朝時代（935年にはアルトシュテティ）に、皇帝城が、城に付属する帝国領とともに存在した。アルシュテットからカール大帝はヘアスフェルトに充分の1税を課した、またアルシュテットは9世紀末にはリウドルフィンガー家にわたっていたと思われる。アルシュテットは皇帝ルードヴィヒ（バイエルン公）から、アンハルトの諸伯ないしマンスフェルトの諸伯に、

帝国レーンとして与えられた。それは、カール4世から、ザクセン宮中伯領の中核として、1363年にアスカニア家（ザクセンの諸公）に与えられ、アスカニア家から1423年にヴェッティン家（1554年以降最終的にエルネステイン系）にわたった。1369年から1469年までアルシュテットはクヴェアフルトの諸君主、1526年から1575年までマンスフェルトの諸伯に授与されていた。1741年から1920年までアルシュテットはザクセン-ヴァイマル、その後テューリングゲンのもとにあった。1945年にそれはザクセン-アンハルトにいついた。

Almegau アルメガウ（アルムンガ、リッペ川左岸のアルメ川周辺のガウ、ヴェストファーレン）

Almen アルメン（領地） **Alme** アルメ

領地アルメンは公領ヴェストファーレンのブリロン市区に属していた。

Almut アルムート（領地） **Allmut** アルムート

1613年に購入によってザンクト・ブラージェン大修道院にわたったホッホシュヴァルツヴァルトの領地アルムートは、伯領ボンドルフに属していた。バーデン経由（1802年ないし1803年に）で、それらの土地は1951年ないし1952年にバーデン-ヴュルテンベルク州に吸収された。

Alpgau アルプガウ（シュヴァルツヴァルトの南に位置するガウ）

Alpgau (Allgäu) アルプガウ（アルゴイ）（ガウ）

参照アルゴイ。

Alpirsbach アルピルスバッハ（修道院）

1095年にキンツィヒ上流河畔にベネディクト会修道院アルピルスバッハは創設された。諸代官は1400年頃からヴュルテンベルクの諸伯、後には諸公だった。1559年に宗教改革が導入され、修道院座はプロテスタントの教会所有財産へと移行し、1810年に次の段階として世俗的な職務に分散された。参照バーデン-ヴュルテンベルク州。

Alschhausen アルシュハウゼン（帝国村落？）

参照アルトスハウゼン。

Alsensz アルゼンツ（領地）

ロッケンハウゼン近郊のアルゼンツは775年に初めて言及されたと思われる。1398年にラウグラーフエン家、ランデッカー・ウント・レーヴェンシュタイナー家、そしてライングラーフエン家が、そこの権利を付与されていた。ライングラーフエン・ツー・グルムバッハ-グレーヴァイラー家は、1755年に、かれらの持ち分をプファルツ-ツヴァイブルク

ツッケンに譲渡した。プファルツ - ツヴァイブルュッケンは、1756年に、交換によってアルゼンツ全土をナッサウ (ナッサウ - ヴァイルブルク) に与えた。ナッサウは1803年にその領地アルゼンツを失った。参照ラインラント - プファルツ。

Alst アルスト (伯領)

参照アールスト。

Altaichi アルタイヒ (修道院)

741年にバイエルン公オディロによって創設された、ドナウ河畔の修道院アルタイヒ (ニーダーアルタイヒ) は857年に帝国直属身分を得たが、1152年にバンベルク高司教区本部の管轄下に置かれることにより、その地位を失った。1803年にはバイエルンに有利になるよう解体された。

Altburg アルトブルク (帝国騎士領)

ヴェルテンシュヴァンを含むアルトブルクはシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。それはヴェルテンベルクにわたり、その結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にいきついた。

Altdorf アルトドルフ (帝国村落)

ラーフェンスブルク近郊のアルトドルフは11世紀末に初めて言及されている。1330年に皇帝ルートヴィヒ4世 (バイエル公) は担保としてアルトドルフに帝国税を、そして1332年にはその帝国村アルトドルフをブレゲンツ伯ユーゴに与えた。相続権に則って、それはモンフォールの諸伯にわたった。1415年にジーギスムント王 (1410-37) は1414年には諸権利を認めていたその村を、帝国世襲司厨長ヨハン・フォン・ヴァルトブルクに担保として与えた。

Altdorf アルトドルフ (帝国の領邦代官執務地)

参照シュヴァーベン (帝国領邦代官執務地)。

Altdorf アルトドルフ

参照ガイリング・フォン・アルトドルフ。

Alteburg アルテブルク (領地)

アルテブルク周辺に形成されたその領地は、1437年に帝国都市ロイトリンゲンに獲得された。それは1803年にヴェルテンベルクのものになり、その結果、1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州のものになった。

Altena アルテナ (諸伯)

アルンスベルク近郊のアルテナは10世紀末に初めて言及されている。1122年に命名されたその城塞は、1161年から1200年までアルテナの諸伯つまりベルクの諸伯の分家の居所であった。13世紀初頭にかねは自分たちの居所をマルク城塞へ移し、そこからその支配領域マルクを拡大した。アルテナ自体は1188年頃からケルンのレーンであった。

Altenau アルテナウ

参照フォルトツ・フォン・アルテナウ。

Altenburg アルテンブルク (侯領)

1603年から1672年までライプツィヒ近郊のアルテンブルク(1146年ないし1147年城伯領、1324年マイセン辺境諸伯に担保)は、エルネスティン系の居住地であった。参照ザクセン-アルテンブルク、テューリンゲン。

Altenburg アルテンブルク (帝国都市)

ライプツィヒ近郊のアルテンブルクにスラブ人の環状塁壁(800年頃)がつくられた。その箇所に10世紀に城塞が建設され、それをオットー2世は976年にツァイトの司教に与えた。12世紀にその居城アルテンブルクはシュタウフェン家の帝国領土プライセンラントの中心となり、都市法を獲得した。1290年にアルテンブルクは帝国直属となった、が、はやくも1311年ないし1328年にヴェッティン家の支配下に入った。1485年にそれはエルネスティン系にわたった。1603年から1672年まで、それは、アルテンブルクから自分たちの名をとったエルネスティン家の系統(ザクセン-アルテンブルク)の居館であった。それは1826年から新公領ザクセン-アルテンブルク^{レジデンツ}の首都となる1918年まで、ザクセン-ゴータに所属した。1920年にアルテンブルク共和国^{フライシュタット}のそれは、テューリンゲン共和国にいきついた。

Altenheim アルテンハイム (帝国騎士)

16世紀にアルテンハイム家はフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンに属していた。

Altenkirchen アルテンキルヒェン (役所管轄地域)

ケルン-フランクフルト街道とケルン-ライプツィヒ街道の分岐点にあったヴェスターヴァルトのアルテンキルヒェンは、フランク王国時代には建設されていた。そして1131年にボンにあるカシウス修道院への賜物の際に初めて出現した。12世紀にそれはザインの諸伯の手にわたった。15世紀以降それは時々官庁の所在地となり、1662年以降伯領ザイン-アルテンキルヒェンの本拠地であった。伯領アルテンキルヒェンは1741年にザクセン-アイゼナハの諸公に所属し、その後、1791年までアンスバッハの辺境諸伯、1802年までプロイセン、1815年までナッサウ(ナッサウ-ウージンゲン)そしてそれからプロイセンに所属

した。1946年にそれはラインラント-プファルツ州にいきついた。

Altenmuhr アルテンムール (帝国騎士領地)

アルトミュール中流河畔に位置するムールは893年に初めてヴィクスとして言及されている。1169年以降そこには高司教区本部アイヒシュテットのミニステリアーレンがいたのが証明できる。1383年以降ますますニュルンベルクの城伯たちに委託されていったその土地は、徐々にレントルスハイム家の手に移っていった。1538年にムール (ムル) 一族は絶えた。それ以来アンスバッハ^{オーバーレーンズヘルリヒカイト}辺境諸伯の上級レーンの領地が圧倒的に多くなった。1752年以降レントルスハイム家は帝国騎士^{メデアートヘルシャフト}の帝国非直轄地としての土地をもっていた。レントルスハイム家が絶えたので、アルテンムールは1799年にハルデンベルク家にわたった。参照バイエルン。

Altenschönbach アルテンシェーンバッハ

参照エーゼル・フォン・アルテンシェーンバッハ。

Altensteig アルテンシュタイク (領地)

カルヴェ近郊のアルテンシュタイクは1085年に初めて言及されている (アルドゥンシュタイガ)。それは13世紀初頭以降ホーエンベルク家の領地ヴィルトベルクに所属していた。アルテンシュタイクはそのヴィルトベルク領地から、1355年に土地分割の際に、個人の領地として、ヴィルトベルクから分離された。その都市は14世紀後半にホーエンベルク家の諸伯によって建設された。1398年にアルテンシュタイクはホーエンベルクの購入によって半分が、しばらくして全部がバーデンの辺境伯たちにわたった。1603年には購入によってヴェルテンベルクの諸公にわたった (1811年まで役所管轄区域)。それは1945年から1952年までヴェルテンベルク-ホーエンツォレルンに所属し、その後バーデン-ヴェルテンベルク州に所属した。

Altenstein アルテンシュタイン

参照シュタイン・ツム・アルテンシュタイン。

Altes Land アルテス・ラント (ハンブルク近郊)

Altgau アルトガウ (アルトゴイウエ、テューリンゲンのヴィッパーとウンストルートのあいだのガウ)

Altgeringeland アルトゲリゲラント (フリースラントにある地域)

Althausen アルトハウゼン (帝国村落)

(パート) メルゲントハイム近郊のアルトハウゼンに対してドイツ騎士団は保護権を、

教会事項に関する権利ではアンスバッハに対して、他の諸権利はその村全域にもっていた。

Altheim アルトハイム (帝国村落?)

参照ガイリング・フォン・アルトハイム。

Althohenfels アルトホーエンフェルス (領地)

1479年に帝国都市ユーバーリンゲンに征服された、ジップリンゲン近郊のボーデンゼー湖畔の城塞アルトホーエンフェルスは、一領地の中心だった。参照バーデン-ヴュルテンベルク。

Altigen アルティンゲン (帝国村落?)

Altkirch アルトキルヒ (領地)

ブルゴーニュ溪谷にあるアルトキルヒは、初期にはメンペルガルトの諸伯に所属し、1103年以降はプヒルツの諸伯に所属した。1324年に領地アルトキルヒはハーブスブルク、1648年にはフランスにわたった。

Altleiningen アルトラインゲン (城塞)

1110年から1120年の間にエーミッヒ伯2世はフランケンタール近郊のその城塞ライニンゲンを建設したと思われる。それは新しい城塞ノイライニンゲンと区別されるために、1242年からはアルトラインゲンと呼ばれた。1317年に城塞アルトラインゲン——それに対する諸権利を相続によりシュポーンハイムの諸伯(1532年まで)もナッサウの諸伯(1429年まで)も手に入れた——はライニンゲン-ダークスブルク系、15世紀には女系相続によりライニンゲン-ヴェスターブルク系のものとなった。参照ライニンゲン-ヴェスターブルク-アルトラインゲン。

Altmanshofen アルトマンズホーフェン (領地、帝国騎士)

1188年に初めて裏付けできる、リンダウからメミンゲンへの街道沿いに位置するアルトマンズホーフェン(アルトマニスホーフィン)の名称をとって、シュヴァーベンの主馬頭職を占有していたラウトラッハ出自のアルトマンズホーフェンの君主たちは、1201年以降自らをそう命名した。かれらの土地を1478年から1539年までランダウの諸君主が獲得した。1601年にその領地はムッゲンタールの男爵たちにわたった。かれらは1662年以降それをトルッフゼッセン・フォン・ヴァルドブルク-ツァイル家に売却した。シュヴァーベン騎士クライスの騎士カントン・ヘーガウ-ボーデンゼー-アルゴイ(ヘーガウ-アルゴイ-ボーゼンゼー)に納税義務のあるその領地は1806年にヴュルテンベルク、その結果、1951年ないし1952年にバーデンヴュルテンベルク州のものとなった。

Altmark アルトマルク (辺境)

そのアルトマルクは14世紀以降アルトマルクと記され、965年に3等分された、辺境伯ゲーロ（965年没）の支配地域のエルベ川まで達する北側部分（ノルトマルク）である。それは1134年にアルブレヒト熊侯（アスカニア家）にわたった。アスカニア家はアルネブルクの諸城伯やオスターブルクの諸伯またガルデレーゲンの諸伯とヒラースレーベンの諸伯を追い出した。1316年にヴォルミルシュテット周辺の南側は、マクデブルク大司教区本部に委譲された。ブランデンブルクのアスカニア家が絶えた後（1317年から9年）、残りのアルトマルクは、最後の辺境伯の未亡人の婚姻により、ブラウンシュヴァイク公オットーにわたったが、後に広範囲に及んで帝国に戻り、そこから1475年にニュルンベルクの諸城伯とブランデンブルクの諸辺境伯にわたった。1807年から1813年まで、それはフランスのヴェストファーレン王国のエルプ県の一部となった。それは1816年にプロイセンの行政区域マクデブルクの一部としてザクセン州^{プロヴィンツ}に編入された。参照ブランデンブルク、プロイセン、ザクセン-アンハルト。

Altmül アルトミュール (カントン)

アルトミュールはヴィルヘルムスドルフに住居をもっていた帝国騎士たちのフランケン騎士クライスの1カントンである。カントン組織自体も1806年には同じようにカントンの構成員であった。

Altschell アルトシェル (帝国騎士)

1800年頃アルトシェル家はフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していた。

Altshausen アルトスハウゼン (帝国村落?)、**Altschhausen アルチュハウゼン**、**Aschhausen アシュハウゼン**

ラーフェンスブルクの北西に位置するアルトスハウゼンは、エリトガウにある伯領とともに1004年に皇帝ハインリヒ2世（1014-24）からヴォルフラート・フォン・アルトスハウゼンにわたった。ドナウ河畔とオーバーシュヴァーベンに莫大な土地を所有していたその一族の出自は定かでない。1134年頃から、アルトスハウゼンの諸伯はフェリングンの名をとって自らをそう命名した。かれらは1170年頃ネレンブルクの諸伯を創始した。アルトスハウゼンは1245年にグリューニンゲン-ランダウの諸伯を経由して帝国宮内長官であるハインリヒ・フォン・ビゲンブルクにわたった。かれはそれをドイツ騎士団に与えた。アルトスハウゼンはエルザス-シュヴァーベン-ブルグント騎士団管轄区域の16ある騎士修道会管区のうちで一番裕福だった。15世紀以降、アルトスハウゼンは帝国諸伯の地位を有していたラント騎士修道会管区長の本拠地だった。その領地アルトスハウゼンには9つの村が属し、騎士修道会管区には領地アルネッグ、領地イルラーリーデン、領地エレンホーフエン、領地アッハベルク、領地ブルーメンフェルトも属していた。18世紀末にはアルトスハウゼンはドイツ騎士団管区として約3.5平方マイルの土地とともに、シュヴァーベン帝

国クライスに所属していた。ヴェルテンベルク経由で、アルトスハウゼンは1951年ないし1952年にバーデン-ヴェルテンベルク州にいきついた。参照エルザス・ウント・ブルグント（ドイツ騎士団管轄区域）。

Altstadt アルトシュタット（帝国村落）**Altenstadt** アルテンシュタット

ヴァイセンブルク近郊のアルトシュタットは、1504年8月20日にヴァイセンブルクとムンダートそして帝国村シュライタール（シュライトタール）、帝国村ゼーバッハ、帝国村シュヴィンクホッフエン（シュヴィンクホーフエン）、帝国村ヴァースパッハとともに、マキシミーリアン1世〔皇帝1508-19/国王1493-1519〕によって保護された。参照エルザス。

Altstätten アルトシュテッテン（帝国都市）

ボーデンゼー湖畔の南に位置するアルトシュテッテンは、すでに1298年にナッサウ王アドルフによりザンクト・ガレン大修道院に、1347年に皇帝ルートヴィヒ4世（バイエルン公）によりヴェアデンベルクの諸伯に、1415年に皇帝ジークムントによりネレンブルクの諸伯、1417年にリーンハルト・フォン・ユンギンゲンとフリッシュハンズ・フォン・ボドマン、1424年にトッゲンブルクの伯、そして1430年にウルリヒ・バイエラーとコンラート・バイエラーに担保として与えられた。後にそれはザンクト・ガレン・カントンにわたった。

Altzelle アルトツェレ（^{アブタイ}大修道院）

1162年にマイセン辺境伯オットーがフライブルク盆地の南部に開拓した新開地800フェエ上に、1169年ないし1170年（1175年？）にシトー会修道院ツェラ・サンクタエ・マリアエ（1268年以降アルトツェレ）は創設された。それは中部ドイツの東側でもっとも裕福な修道院の1つであったが、マイセン諸辺境伯の発展していく^{シュタート}邦に吸収された。絶えず居住されていた修道院アルトツェレは1540年に世俗化された。参照ザクセン。

Alverdisen アルフェアディッセン（領地、都市）

1151年に、山頂にあった司教区本部へアフォルダーの数ある土地の1つとして言及されているアルフェアディッセン（アルヴァーデッセン）は、シュテルンベルクの諸伯から都市の諸権利を獲得した。15世紀にそれは大部分が担保として与えられていた、そして16世紀にピールモンツ-シュピーゲルベルクのリップペ家の一傍系的手中にあった。1613年ないし1640年ないし1647年に、それはシャウムブルク-リップペにわたった。参照リップペ-アルフェアディッセン、ノルトライン-ヴェストファーレン。

Altzettegau アルトツェッテガウ（パーグス アルゼンツィエンジス）

Alzey アルツァイ

参照ヴィルヒ・フォン。

Amavorum pagus アマヴォルム パーグス (アマヴェンゼ パーグス、ブルグントにおける)

Amberga アムベルガ (アムブラガ、アムバルガン、オンマーガッフィー)
参照アマーガウ。

Amblise アンブリゼ (領地、侯)

スペイン領ネーデルラントにある領地アンブリゼはレックハイムとアプレモントの諸伯に所属し、その後、独立した諸侯領となった。それは女子相続人を經由してレナートゥス・フォン・アンゴイアー、つまりボウルレモント君主のものとなった。アンブリゼの侯は1776年の帝国登録簿^{ライヒスストケーテル}によれば、ニーダーライン-ヴェストファーレン帝国クライスに属していた。

Ameiden アーマイデン (領地)

ネーデルラントにある、元来ブレードローデの領地アーマイデンは1687年にドーナ家からリップの諸伯 (リップ-デトモルト) にわたった。参照ネーデルラント。

Amelungsborn アーメルングスボルン (修道院)

1129年ないし1135年頃に、オドフェルト高原の南縁に、ノルトハイム-ボームネブルクの伯は、ホルツミンデン近郊のシトー会修道院アーメルングスボルンを創設した。それはリドダクスハウゼンとドーベランの母体修道院であった。さらにこれら2つの修道院からイーゼンハーゲン-マリエンローデ、ヴァルスハウゼン、ダールゲン、ベルプリンが派生した。とくにホンブルクの諸貴族とエーヴァー (フェル) シュタインの諸伯を通して、それは、ヴェーザー川とライネ川との間に数多くの土地 (アラースハイム、シュネッティングハウゼン [シュネディングハウゼン]、エルツハウゼン、ブルッフホーフ) を、またメクレンブルク地方 (ザトウとドランゼ) にも土地を獲得した。メクレンブルクの土地は14世紀に失われた。16世紀にその修道院は、1568年に宗教改革を導入したブラウンシュヴァイクの諸公に従属するようになった。参照ニーダーザクセン。

Amerdingen アーメルディングエン **Ammerdingen** アメルディングエン (帝国騎士オルト)

ネルトリンゲンの南部に位置するアーメルディングエンは、シュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンに属していた。参照バイエルン。

Ammann von der Laufenburg アマン・フォン・デア・ラウフェンブルク (帝国騎士)

Amann von der Laufenburg アーマン・フォン・デア・ラウフェンビュルク

16世紀初頭、アマン・フォン・デア・ラウフェンブルク家、はフランケン騎士クライスのアルトミュール・カントンに属していた。

Ammerdingen アメルディングエン

参照アーメルディングエン。

Ammergau アマーガウ (Ambergeue アムベルゴウウエ, Ambraga アムブウガ, Ambergau アムベルガウ, Ommergavvi オマーガヴィ, Ammeri アメリ, Amberga アンベルガ, ネットとインナーステとの間のガウ)

Ammeri アメリ (Ammiri アミリ, Ambria アムブリア, Ammern アメルン, Amerland アマーラント, "Oldenburger Ammerland" “オルデンブルガー・アマーラント”)

Amorbach アーモルバッハ (大修道院)

ヴォルムスとシュパイアーの周辺地域出自のフランケン貴族の一族は8世紀(734年?)に、オーデンヴァルト山地に修道院アーモルバッハを建設したと思われる。849年に皇帝ルートヴィヒ(ドイツ人王)は、とくにオーデンヴァルト山地の南部に横たわる土地を、ムート河川とヴォルクマン森に付随する権利を手に入れるために、ふやした。10世紀までに王の手中にいきついたその大修道院に関する諸権利は、993年に公文書偽造により高司教区本部ヴェルツブルクの手にわたった。12世紀に、王はその代官職をデュルン(デュルナ)の諸君主に(帝国)レーンとして授けた。1272年にウルリヒ・フォン・デュルンは、その都市アーモルバッハをマインツ大司教区本部に譲渡することを強いられた。1803年に、1742年以後に新設されたその大修道院——16世紀後半にフランケン騎士クライスのオーデンヴァルト・カントンの構成員であり、そして1800年頃100の集落に土地をもっていた——は、世俗化され、その補償としてライニンゲンの諸侯に委譲された。1806年にその新しい侯領は、帝国直属の地位を剥奪され、地方領主に隷属させられた。その結果、アーモルバッハはバーデン、ヘッセンにわたり、1816年にバイエルンにいきついた。

Amstelland アムステラント (アムステルダム近郊の地域)

Amtitz アムティツ (領地)

アムティツは1806年に皇帝直属地位を失ったニーダーラウジツ(グーベン・クライス)貴族の領地であった。参照ポーランド。

Andechs アンデックス (諸伯、諸公)

アマーゼー湖畔のアンデックス(1060年頃はアンデーザ、「周辺地域のやぶの中でひときわ際だっていた場所」)の諸伯は、ラポトーン出自で、かつ990年頃にヴォルフラートスハウゼン近郊のイーザル上流河畔のベルトルトという名の伯でもって初めて明らかにできるディーセンの諸伯の分家である。ディーセンの諸伯は、当初アマーゼー湖畔のディーセンの名にちなんで自らをそう名乗っていた(ベルトルト2世、1025年-1060年)が、自

由地に属する出身城塞がアウグスティノ修道参事会会員修道院へに変更したので、1132年以降アンデックスと名乗った（帝国登録簿には1521年まだディーセン諸伯の名前が載っている）。アンデックスには古い帝国世襲封土と帝国代官執務地が存在していたのは確かである。11世紀に、その一門は西へ、レヒ川とアマーゼー湖との間に位置するアウクストガウに勢力を伸ばし、テーゲルンゼー修道院とシェフトラルン修道院を含むヴォルフラートスハウゼン周辺のイーザル伯領、ヴェルムゼー湖周辺の伯領、そしてジギマーレ家のフォジガウ伯領も獲得した。その辺境伯弟系ないしシュヴァインフルトの諸伯の死滅でもって（1058年）、アルノルト・フォン・ディーゼルは、妻ギゼラ経由でマイン上流域に広大な土地（クルムバッハ、1135年にブラッセンブルク創設、12世紀末バイロイト創設、バンツ修道院とラングハイム修道院の代官執務地）を獲得した。それらの土地は、ベルトルト2世のヴァイマル-オルラーミュンデの伯の娘との結婚、そしてポッポス・フォン・アンデックスのクニグンデ・フォン・ギーセンとの結婚により、計画的に拡大された（ギーヒ、リヒテンフェルス）。ブリクセン高司教区本部から、その諸伯は、11世紀末に、伯領ウンターインター（1180年にインスブルックの創設）と伯領プスタータルをレーンとして手に入れ、高司教区本部代官職とノイシュティフトに対する代官職をもらった。1158年にかれらはフォルムバッハの諸伯からイン河畔の伯領ノイブルク、イン河畔の伯領シェルディングとドナウ河畔の伯領ヴィンドベルクを相続した。1173年にシュタウフェン家はかれらの忠誠を称え、レーンとして辺境伯領イスツリーンを授けた。その後、かれらは1180年ないし1181年に（フィウム周辺のグアルネロ河畔の）メラニエン（クロアチアとダルマチア）の諸公となり、その結果、ヴェルフェン家と並んで南部ドイツの一門中でもっとも有名な一門に上昇することができた。ベルトルト公の子どもたちのうち、アグネスはフランスの王、ゲルトルートはハンガリーの王、ヘドヴィヒはシュレージエンの公、オットーは宮中伯領ブルグントの相続人である女性、そしてハインリヒはゾフィー・フォン・ヴァイクセルブルクと結婚した。メヒティルトはキッティンゲンの大修道院長、ベルトルトはアクヴィレーヤの総大司教、そしてエクベルトはバンベルクの司教になった。しかし1208年には、アンデックスの諸伯は、オットー・フォン・ヴィッテルスバッハによるシュヴァーベン大公フィリップ殺害に表向きに関与したとして、アンデックスを含むかれらのオーバーバイエルン地方の土地をヴィッテルスバッハ家のバイエルン諸公に、辺境伯領イストリーンをアクヴィレーヤ（1209年）に、高司教区本部の代官執務地ブリクセンをティロールの諸伯に失った。一方で、オットー1世伯（1234年没）は皇帝フリードリヒ1世バルバロッサの孫娘との結婚により、ブルグントの宮中伯領を獲得した。1248年にブルグントの宮中伯オットー2世でその男系は絶えた。その遺産はバイエルンの諸公、ティロールの諸伯、（オットー2世の妹経由で）ニュルンベルク（バイロイト）の諸城伯、高司教区本部バンベルク（リヒテンフェルス）、同様にオルラーミュンデの諸伯とトルーエンディングンの諸伯のものとなった。

Andlau アンドラウ（女子修道院）

880年頃に女帝リヒャルデイスによって創設され、経済的にも裕福だったベネディクト

会女子修道院アンドラウはフランス革命（革命中）終結まで帝国に直属していた。

Andlau アンドラウ（諸伯、帝国騎士）

エルザス地方のアンドラウは900年に初めて言及されている（アンデラハ）。1150年に一人の伯オットー・デ・アンデラーエが言及されている。その自由貴族一門の支配領域に、アンドラウ溪谷は属していた。後にはオーバーエルザスにある土地も属していた。1773年に、1680年には定住していて、かれらの土地とともに騎士位に登録されていたアンドラウは、エルザス騎士クライスに属していた。

Angelach アンゲラッハ

参照アンゲロツホ、アンゲルロツホ。

Angeloch アンゲロツホ、Angelloch アンゲルロツホ、Angelach アンゲラッハ（帝国騎士）

カスパール・フォン・アンゲラッハ・ツー・マルムセン（マルムスハイム）は、1581年にシュヴァーベン騎士クライスのネッカー・カントンの構成員であった。18世紀にアンゲロツホ家はライン騎士クライスに属していた。さらにディートリヒ・フォン・アンゲロツホは、1564年から1567年にシュヴァーベン騎士クライスのコヒャー・カントンにあるウツメミンゲンの所有者だった。

Anglahgouwe アングラゴウヴェ（Angilahgouwe アンギラーゴウヴェ、Engilacgouwe エンギラックゴウヴェ、Adahgouwe アダゴウヴェ、ノルトバーデンのガウ）

Angleria アングレリア（伯領）

伯領アングレリアは18世紀にオーストリアから要求されたレーン、公領ミラノに属していた。

Anhalt アンハルト（諸伯、侯領、公領、共和国、地方の一部）

11世紀に、1000年頃から知られているアスカニア一家の一門、一時的にバレンシュテットの諸伯と名乗っていたその一門は、ハルツフォアラントとフレミング地方との間のその地域を支配していた。1170年に死亡したアルブレヒト熊公のあとを、2人の息子、オットーとベルンハルトが継承した。かれらの内ベルンハルトがハインリヒ獅子公失脚後にザクセン公の称号ならびにラウエンブルク近郊のエルベ下流域に位置するザクセン公領の一部を手に入れた。それに加えてヴィッテンベルク周辺のエルベ川右岸地域も獲得した。ベルンハルトの死（1218年）に際して、長子ハインリヒ1世は（1212年-1244年）は、もともと一門世襲領地であるオストハルツ（ウンターハルツ）とミッテルエルベ（エルベ下流の）（アシャースレーベン[アンダースレーベン]、バレンシュテット、ベルンブルク、ケーテン、デッサウ）を手に入れた。かれは、バレンシュテットが一修道院へ変更された後、

1050年頃におそらくエジコ・フォン・バレンシュテットによって、ゼルケタール溪谷の上方に築かれたその城塞の名にちなんで自らをそう名乗った。そして諸侯の称号を授与されたという報告もなしに、単独の伯として1218年から帝国諸侯に所属していた。諸侯の称号は文書的には1223年に初めて現れるのだが。かれの死後、遺産分割によって、後に、常にブランデンブルク-プロイセンとザクセンから圧迫を受けていた一門アンハルトの中で、1252年にアンハルト-アシャースレーベン系（1315年まで）、アンハルト-ベルンブルク兄系（1468年まで）、アンハルト-ケーテン系（後にアンハルト-ツェルプスト兄系）が生まれた。ブランデンブルクとヴィッテンベルクにあるアスカニア家遺産への要求は、1319年にも1422年にも認められなかった。アシャースレーベン系は1315年に絶えた。かれらの領土は、それがアシャースレーベン自らのように高司教区本部ハルバーシュタット（1648年にブランデンブルク-プロイセンに）にはとられなかったけれども、1322年にアンハルト-ベルンブルク系にわたった。1307年ないし1319年にアンハルト-ケーテン系は、（アルンシュタイン-）バルビーの諸伯から（ツェルプスト兄系の）ツェルプスト領地を獲得した。1396年にアンハルト-ケーテン系（ないしツェルプスト兄系）はジークムント系（エルベ川右岸、ツェルプスト）とアルプレヒト系（エルベ川左岸、ケーテン）に分化した。ジークムント系はアルプレヒト系の一部を、同じように1468年にベルンブルク系滅亡によりそれらの土地も手に入れた。1474年にジークムント系は新たにケーテン兄系（アンハルト-ケーテン）とデッサウ兄系（アンハルト-デッサウ）に分化した。ケーテン兄系は1508年にツェルプスト家の土地の一部を獲得した。かれらの土地は、かれらの滅亡時、1562年にデッサウ系にわたった。デッサウ系は1546年にツェルプスト系、プレッツカウ系、デッサウ系に分化した。1526年からアンハルト-ケーテンにおいて、1534年まではしかしまたアンハルト-デッサウにおいても導入された宗教改革の結果、アンハルトの代官の管理下にあった諸修道院、つまりザール河畔のニーンブルク修道院、ゲルンローデ修道院、ヘッヒリング修道院の土地が獲得された。1547年にツェルプストとケーテンはロドロ（ラドローナ）に取られた、が、ロイスへの売却後1552年には契約によって戻ってきた。1570年にデッサウ兄系出自のヨアヒム・エルンスト（1561年-1586年）侯は、様々な遺産相続により、アンハルト全土を40.8平方マイルの土地と一時的に併合し、その全土に対して1572年に包括的な領邦令と教会法令を公布した。遺産分割によって5人の息子が一時的に共同統治をおこなった後、1603年に、アンハルト-デッサウ弟系（1918年まで）、アンハルト-ベルンブルク弟系（1863年まで）、アンハルト-ケーテン弟系（1665年まで）、アンハルト-ツェルプスト（1793年まで）弟系、アンハルト-プレッツカウ弟系（1818年から1847年まで）が生まれた。1635年以降、最年長者が共通重要事項を多数決で遂行する長子会議制が導入された。全諸侯が帝国諸侯会議で一同票を持ち、それ以外にゲルンローデ帝国大修道院の議席を代理した。かれらは帝国クライス内ではオーバーザクセン帝国クライスに属していた。5つの系の内アンハルト-ケーテン系は1665年に絶え、この系の土地はアンハルト-プレッツカウ系に併合された。それ以後、アンハルト-プレッツカウ系はアンハルト-ケーテンを名乗った。アンハルト-ツェルプスト系は1667年に相続により領地イエーファーを獲得した。1793年にその系は絶え、かれらの土地はアンハルト-デッサウ系とアンハルト-ベルンブル

ク系とアンハルト-ケーテン系にわたった。イエーファーはアンハルト-ツェルプストの最後の侯の妹、つまりロシアのカタリーナ2世にわたった。アンハルト-ベルンブルクから、1709年まで存在したアンハルト-ベルンブルク-ハルツゲローデ系は分化した。それは1707年に、さらに傍系、ホルツァッペルとシャウムブルクの諸伯の遺産を相続したアンハルト-ベルンブルク-シャウムブルク系にいきついた。かれらのアンハルトの土地の一部は、かれらの消滅後、1812年にアンハルト-ベルンブルクに戻った。アンハルト-デッサウは1632年から1643年まで分割されていた。1702年に「昔からのデッサウ人」レオポルト侯に、オラニエ家出自のかれの母から、莫大な遺産が手に入った。1726年から1823年まで、身分にふさわしくない、秘密婚の夫婦から生まれた、アンハルトの諸伯系が存在した。1806年にアンハルト-ベルンブルク、1807年にはアンハルト-デッサウと、1808年にナポレオン法典を導入したアンハルト-ケーテン (-プレッツカウ) もライン同盟加入にともなって公領となった。1800年頃には合計48平方マイルの地域で人口11万8000人を含んでいたアンハルト-ベルンブルク、アンハルト-ケーテン、アンハルト-デッサウは、1815年に主権 (独立) 国家としてドイツ連邦 (1815年-1866年) に加わった。1847年にアンハルト-ケーテンはアンハルト-デッサウにわたり、1849年にアンハルト全土が憲法をもった。1863年にアンハルト-ベルンブルクもアンハルト-デッサウにわたり、その結果、中部エルベ河畔、下部ザール河畔の領域やウンターハルツに拡大してきたアンハルトの土地は統合された。1918年11月12日にアンハルト公は廃位した。新しくできた共和国アンハルトは人口43万2000人 (1939年) で、2326平方キロメートルの大きさだった。1919年7月18日に憲法をもち、首都はデッサウだった。1933年にアンハルトはブラウンシュヴァイクと共有の帝国総督下におかれた。1945年7月9日にソ連占領地区内のアンハルトは、ザクセン県から1944年7月1日に形成されたプロイセンの州マグデブルクおよびハレ-メルゼブルクと統合し、1947年にザクセン-アンハルト州に組み込まれたが、それは1952年7月23日から1958年12月8日に解体された (議論の余地あり)。解体されたうち最大部分はハレ県、小さい部分はマグデブルク県になった。ドイツ民主共和国がドイツ連邦共和国に再統一された結果、1990年10月3日に再びザクセン-アンハルト州が生まれた。